

春日王の歌一首

六六九番

あしひきの 山橋の 色に出でよ 語らひ継ぎて
逢ふこともあらむ

湯原王の歌一首

六七〇番

月読の 光に來ませ あしひきの 山きへなりて
遠からなくに

和ふる歌一首

六七一番

月読の 光は清く 照らせれど 惑へる心 思
ひあへなくに